

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191300991		
法人名	株式会社 You More Smile		
事業所名	グループホームほのぼの		
所在地	岐阜県加茂郡東白川村越原16-1-1		
自己評価作成日	令和 3年 1月 8日	評価結果市町村受理日	令和 3年 9月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者個々のニーズに応えられるようなケアの向上に努めている。 ・職員も個々の個性や特技を生かし業務を行っている。 ・地域に根差した暮らしを提供することに努めている。 ・家庭的な環境で、常に目配り・気配りを心掛けた介護を提供している。 ・旬の食材を使った料理や郷土料理を利用者と共に作り楽しんでいる。 ・居住空間の季節毎の飾り付けや行事の工作等、個々の能力に合わせて役割分担をして過ごしている。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191300991-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和 3年 2月17日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>※新型コロナウイルスへの感染拡大の防止を目的に電話による聞き取り調査を実施した。</p> <p>コロナ禍によって、地域交流や外出支援等は大きな影響を受けているが、利用者を中心にした家庭的な雰囲気や大切にされた支援は継続されている。条件付きではあるが、家族面会が行われている。利用者の大きな楽しみである季節の郷土料理作りも、職員に交じって利用者の手伝いがある。ほうば寿司や里芋餅、おはぎなどを一緒に作り、冬には干し柿作りを楽しんだ。</p> <p>職員が下絵を描き、利用者が貼り絵をして完成させた作品を恒例の文化展に出展した。しかし残念ながら、今年度はコロナ禍によって利用者の見学を自粛した。1日も早くコロナ禍が終焉を迎え、ホームにこれまでの穏やかな生活が戻ってくることを祈らずにはいられない。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	長年にわたり、共に暮らしてきた地域で暮らし続けることの大切さや価値を、互いに理解しており、つながりを大切にしている。	玄関を入ると、「お互いに支え合いながら楽しく生活する、家庭的な雰囲気自分らしく生活する」との理念が目に入る。利用者も職員も地域出身者が多く、家庭的な雰囲気が自然に醸し出されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	村に唯一存在するグループホームであり、地域の方々や組織にはとても大切にいただいている。	コロナ禍によって、ボランティアの受け入れをはじめ地域との交流が大きく制約を受けることとなっている。恒例となっている文化展には作品を出展したが、利用者の見学は自粛した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	村唯一の認知症グループホームとして地域に知名度があり、老人クラブからのボランティアの方々等を通じ、地域に広がっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、評価結果の他、サービス提供状況等報告し、意見を拝聴・共有している。	行政(村役場)との調整により、年間6回の運営推進会議は、すべて書面開催となった。2ヶ月間のホームの運営状況を書面で会議メンバーに報告し、意見を募っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議参加はもちろん、日常的に運営全般についての良きアドバイザーとして、密な連携支援を受けている。	新型コロナウイルス対策として、村からマスクの提供を受けた。感染情報や感染防止対策の情報も得ており、良好な関係が継続している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフミーティング時を中心に、身体拘束適正化委員会の開催や研修を実施・記録している。現状で、身体拘束が必要な事例はない。	毎月のスタッフミーティングを有効の使い、毎月「身体拘束・虐待防止委員会」を開いている。身体拘束はしないことを基本とし、スピーチロックについても常に意識して行動している。玄関や通用口は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の事例や報道資料等を周知して、職員の意識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	連帯性が強い地域の為、権利擁護制度に関わる事例は皆無であるが、近未来に起こりうる事態として、知識の共有を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談・契約・改定の際は、十分な説明を行い、理解いただけるまで説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	例年に比較すると家族訪問の機会は少ないが、ご家族から気軽に相談できるような関係性に努めている。	家族面会は、万全の感染防止対策を講じた上で、1回10分程度の面会を認めている。定期的な病院受診の際に、家族とのコミュニケーションを図り、意見・要望などを聴いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等の際は、必ず管理者及び役員が出席し、職員の意見収集に努めている。	スタッフミーティングは毎月1回、非常勤職員も参加して行われている。勤務経験の長い職員が多く、管理者とは日常の業務を通して良好なコミュニケーションが図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度個人目標、自己評価、第三者評価等、処遇改善や人事評価に関する基準や仕組みを整備し運用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の力量や学習意欲等の掌握に努め、研修機会に反映させたいが、新型コロナウイルス感染予防の関係で、外部研修参加を休止している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業の他、医療福祉関係者との交流は得るもののが大きいと考えるが、新型コロナウイルス感染予防の関係で休止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談段階から本人やご家族の要望等を拝聴し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	住民同士の関係性が高い地域であるため、地縁による信頼は高く、関係づくりしやすい関係にある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時から、現状について詳細を伺い、各種の介護保険サービスについて説明し、最も適切なサービス選択が可能ないように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時間と空間を共にする者同士として「一つ屋根の下の関係」を、節度をもって育めるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、精神的支えや、病気の時の心の支えとして、共に入居者を支え合う関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者、ご家族と職員は互いが小さな地域に暮らす住民同士であり、馴染みの関係性を保っている。	利用者の多くは「地域出身者」であり、利用者同士も、利用者と職員も顔馴染みのケースが多い。コロナ禍によってホーム外に出られず、パッチワークや貼り絵等の趣味を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が、入居前から多少の関係性を持っている場合が殆どであるため、互いに良き話し相手を大切に暮らしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域の中で関わり合うグループホームとして、サービス終了後も相談等に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員各々の気づきを職員同士で共有し、思いや意向の把握に努めている。	日常の会話やケアを通して思いを汲み取り、ミーティングや記録で職員間の情報共有に努めている。古い話に花が咲き、「冬は日本酒、夏はビール」との生活習慣の話で盛り上がった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	同じ地域に長年住み続ける住民としての絆があるため、生活歴や生活環境の情報源が豊富で、掌握しやすい環境にある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の状況を職員が互いに共有し、入居者の現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員と訪問看護師が出席する職員ミーティングを毎月開催する中で、モニタリングとカンファレンスを同時開催し、入居者の介護計画に反映させている。	介護計画は、短期目標を3ヶ月、長期目標を6ヶ月に設定して取り組んでいる。職員と訪問看護師が合同でカンファレンスを行い、利用者の状況に応じて介護計画の作成や見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の様子介護記録、業務日誌、伝達ノート等に記録、共有しており、ケア内容や計画見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者及びご家族との関わりが、事業所内にとどまらず、長い目で、たとえ間接的であっても地域やご家族の支援につながる関係でありたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	いつまでも地域で暮らせるための、同一エリア内での暮らしの延長の場であり、各地域資源も共有資源であると捉えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診対応は、原則としてご家族にお願いしているが、普段の体調や専門的なことについては、施設から医師に情報提供している。	村内唯一の医療機関である国保診療所を協力医とし、村外の訪問看護ステーションとも連携を図っている。国保診療所は通院受診が原則であるが、重度化した場合は往診対応も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携している訪問看護ステーションの看護師と日常的に緊密な情報交換をしており、早期に適時・適切なアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の関係性が深いため、主治医と病院との連携も緊密で、各者と良好な連携がとれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で可能なこと、困難なことをご家族に説明した上で、最終的に家族の判断によって終末期の過ごし方や場所を決めていただいている。	重度化した場合には、利用者、家族の意向を確認し、医療機関や訪問看護ステーションと連携して方針を決定している。利用者・家族の希望に応じ、ホームでの看取りも可能であり、本評価の1週間前にもホームで1名の利用者を看取った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生については、研修やミーティングを通して実践力強化に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練の他、全国で起きている福祉施設の被災例を参考にして、防災意識を高めている。	防災訓練を年2回実施している。災害時はホームに留まることを基本とし、避難訓練も庭に出ることに留めている。地域や消防、役場にもその旨を伝えている。自家発電機、数日分の水・食料を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に狭い地域に立地するため、施設内で知り得たプライバシーに関わる情報については特段の注意を払うようにしている。	利用者の呼称は、同姓の利用者や職員が多いため、名前にさん付けで呼んでいる。小さな村で、情報がすぐに知れ渡ってしまうこともあり、利用者の個人情報に関して職員は守秘義務を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決して物事を押し付けることが無いよう、入居者本人の意思確認を求めるように声掛けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に家庭の暮らしの延長線上にあるようなペースや環境を意識して支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者本人の趣味や希望に合わせて、声掛けしながら髪を結ったり、帽子をかぶっていただいたりと試みて		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、季節の郷土料理作り、配膳など、関わっていただけの部分には出来るだけ参加いただき食事の楽しみのひとつとしている。	利用者の楽しみの一つに、季節の郷土料理作りがある。季節に応じて、ほうば寿司や里芋餅、おはぎなどを、職員と一緒に作って楽しんでいる。冬には、干し柿を作り、おやつとして楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量・水分摂取量や異変は必ず記録・共有し、必要に応じて、看護職員にアドバイスを仰ぎ、体調変化の早期発見を目指している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各入居者の能力に合わせ、口腔ケアのお手伝いとチェックを行い、異変の訴えやトラブルがある時は歯科医に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者の排泄パターンや習慣をもとに、声掛け、誘導、介助を行っている。	完全に排泄自立している利用者は少ないが、比較的排泄の自立度は高く、トイレでの排泄を基本としている。排泄チェック表を活用して声掛けや誘導を行い、適切な排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用いて通常管理を行い、必要に応じ訪問看護師や医師に報告し便秘予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日と時間帯は決まっているが、本人の希望を確認しながら、1人づつ入浴していただいている。	一日おきの入浴を基本とし、週に3回の入浴機会がある。強い入浴拒否の利用者はいない。入浴時間帯は午後で、利用者の状況に応じて順番や入浴剤などを工夫し、楽しく入浴できるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自がお好みの場所を持たれており、各居室では、環境や布団に慣れて良眠されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者毎に薬の情報シートが綴じてあり職員全員が服薬状況を理解して服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者の出来ること、やってみたい事についてサポートし、本人の自身につながるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ感染防止のため、地域行事への参加やご家族との外出の機会大幅に縮小されているが、一日も早く普通の暮らしができて、外出の機会も増えるように願っている。	コロナ禍によって、外出支援が大きく制限されている。対人接食の可能性の低い散歩は従来通り行っているが、企画外出やドライブは制限している。作品を出展した「文化展」の見学も自粛した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近隣に商業施設が無く、お金を所持する必要が無いことを理解されているので、所持希望の方はいないが、希望者があれば相談にのりたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に制限を設けていないが、本人が希望される前にご家族の面会や電話がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設然とした建物ではなく、各居室も入居者それぞれが個性を發揮して、自身の空間を構えている。	電話による聞き取り調査のため、共有空間への見学なし。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の居間・食堂では、入居者同士で独自の居場所を決めて過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各入居者がご家族と相談の上、使い慣れたものやお気に入りのものを持ち込まれ生活されている。	電話による聞き取り調査のため、居室への見学なし。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置表示をわかりやすくしたり、空間に慣れやすいように工夫して、出来るだけ自立生活が送れるように配慮している。		